



自然栽培米の刈り取り式

長門のやさしさを全国へ

9月16日(火)、油谷後畑の自然栽培米の刈り取り式が行われました。この日は安倍総理大臣の夫人昭恵さん、山口県立大学、下関市立大学の学生、大津緑洋高校日置校舎の生徒も参加しました。

9月16日(火)、油谷後畑の自然栽培米の刈り取り式が行われ、食べる人にもやさしい米。長門の持つていているやさしさと共に全国に届けたい。そして市内全域にこの取り組みを広めたい」とあいさつしました。足元が悪く、歩きにくい状況でしたが、参加者は稲刈りを楽しんでいました。



▲昭恵夫人(左)も刈り取りに挑戦



▲参加者全員ではげ掛けを行い、記念撮影

絵本講座inながと

本や読書のもつ力を学ぶ

9月14日(日)、長門市立図書館で、「絵本講座 in ながと」が開催されました。佐賀女子短期大学の白根恵子教授を講師に約30人が参加しました。白根教授は、事例を説明しながら本との出会いがもたらすもの、読書が育てる力について話しました。



▲参加者に絵本を見せる白根教授

第3回食のワークショップ

長門産の食材を活かして

9月14日(日)、三隅保健センターで、第3回食のワークショップが開かれました。料理研究家の馬場香織さんの指導で、長門の食材を使った30種類の料理が作られました。試食会で料理をお皿に取り分けた参加者は、食事をしながら長門産の食材や調理方法について話し合いました。



▲約50人が参加した試食会のようす

第39回清風キャラバン

歩いて清風を理解する

9月13日(土)から14日(日)にかけて、村田清風記念館から萩城跡まで歩く第39回清風キャラバンが開催されました。これは、江戸時代末期に活躍した郷土の偉人「村田清風」が自宅から萩明倫館まで通った道のりを歩くことで、村田清風について理解するとともに、仲間との絆を深めようと

三隅青年団が毎年開催しているものです。この日の参加者は、三隅地区と深川地区から22人が参加しました。1日目は、宗頭文化センターまで歩き、野外炊飯やレクリエーションを楽しみ同施設に宿泊。2日目は、萩城跡までの約25キロメートルを歩きました。



▲清風の歩いた道のりを列になって歩く

赤崎まつり

地形を活かした劇場で奉納

9月9日(火)と10日(水)、赤崎山周辺で赤崎まつりが開催されました。赤崎山のステージでは、はじめに正明市連合会有志による式三番叟の奉納が行われました。続いて、会場を国指定重要有形民俗文化財である赤崎神社楽棧敷に移して、上川西1区楽踊保存会による楽踊

「虎の子渡し」、湯本南条楽踊保存会による「湯本南条踊」、江良楽踊保存会による楽踊「月の前の伶楽」がそれぞれ奉納されました。すり鉢状の地形を巧みに利用した野外劇場には、たくさんのカメラマンや見物客が訪れ、迫力のある伝統の踊りを楽しんでいました。

第20回長門大津畜産共進会
8月28日(木)、油谷地区の旧人丸家畜市場で第20回長門大津畜産共進会が開催されました。この日の共進会では、市内の農家から34頭が出品され、審査が行われました。審査では、若牛1区、若牛2区、若牛3区、産肉能力区の区分ごとに審査員が牛の大きさや

肉のつき方、毛並みなどを見て等級を決めていきました。審査の結果、向津具地区の松崎恵美子さんの「いぶき」がグランドチャンピオンに輝きました。「いぶき」は、パランスのとれた雌らしい体形、品位がある輪郭の良さが評価されました。



▲「賞をいただいて本当にうれしい」と松崎さん



▲式三番叟は正明市連合会有志により奉納された



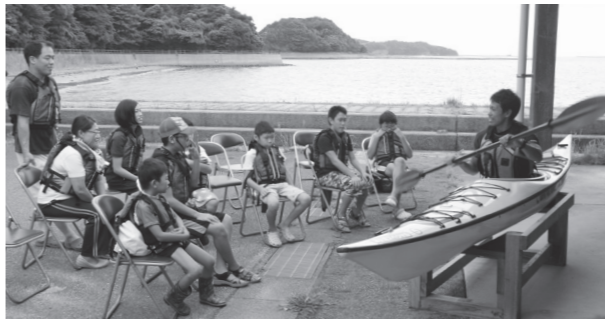
▲江良楽踊保存会による「月の前の伶楽」は繊細な舞が特徴

障害のある子どもたちがシーカヤックを体験

楽しい経験を自信につなげる

8月27日(水)、伊上海浜公園オートキャンプ場(ポニーベイシーカヤックセンター)で、障害のある子どもたちがシーカヤックを体験しました。

これは、楽しい経験をさせることで社会性の発達や情緒の安定を促し、自信につなげようと企画されました。



▲はじめてのシーカヤック。真剣にパドルの扱い方を聞く

この日は7人の子どもたちが参加しました。風がやや強く波もありましたが、子どもたちは沖合まで進むことができました。

1人も転覆することなく海辺に帰ってくると、子どもたちは「楽しかった」と話していました。



▲やや荒れ気味の海に向かって出発!

金子みずゞモザイク画がリニューアル

スマホで動画も楽しめる

8月31日(日)、仙崎の金子みずゞ記念館前に設置してある金子みずゞのモザイク画のリニューアルが行われ、その完成式が行われました。モザイク画は、「みずゞ燦参SUN実行委員会」が制作。以前のものは平成15年に完成し、平成19年に補修したものの、傷

みが激しくなってきたことから今回、詩とデザインを一新し制作し直したものです。大きさは縦3.5m、横8mで約7、400枚のかまぼこ板が利用されています。また、スマートフォンなどによって動画が視聴可能な機能も取り入れられています。

ものが激しくなってきたことから今回、詩とデザインを一新し制作し直したものです。大きさは縦3.5m、横8mで約7、400枚のかまぼこ板が利用されています。また、スマートフォンなどによって動画が視聴可能な機能も取り入れられています。

ものが激しくなってきたことから今回、詩とデザインを一新し制作し直したものです。大きさは縦3.5m、横8mで約7、400枚のかまぼこ板が利用されています。また、スマートフォンなどによって動画が視聴可能な機能も取り入れられています。



▲カラーも寒色系から暖色系へ

第21回すいこうレガッタ 伝統の「海の運動会」

9月6日(土)、仙崎の青海島シーサイドスクエアそばの仙崎湾で、第21回すいこうレガッタが開催されました。この行事は、「海の運動会」と言われているもので、平成6年から行われています。競技はカッターレース、ペーロン競漕、手作りイカ

ダレースの3種目に分かれ、カッターレースの予選からスタート。学年ごとに分かれたチームで予選突破を目指しました。最後のカッターレースの決勝では、勝利を目指して取り組む生徒たちに、保護者から大きな拍手が贈られました。



▲カッターレース決勝に進出した3年生はこれが最後のレース

長門の人 People



亀本 靖彦 かめもと やすひこ

昭和40年1月、北九州市生まれ。平成23年に地元で愛されている食材を使い、安くて美味しい長門市のご当地グルメを発信しようと始まった「食の祭典N-1グランプリ」の実行委員長に昨年より就任。今月5日に4回目の開催となるN-1グランプリを運営、指揮する。現在49歳。

豊穡の海と山、大地に育まれた長門市。このまちには、海の幸、山の幸、大地の恵みなど素晴らしい食材があふれています。この豊富な資源を活かして、ご当地グルメを生み出す「食の祭典N-1グランプリ」に、市内で和食料理店を営む亀本さんは「順位が付くというところが作り手としてやりがいがある」と挑戦を続けています。1回目は、和風にこだわらず、「お客さんが食べやすいものを」と開発したつけ麺で勝負に挑みましたが、うまくいきませんでした。2回目の挑戦となった昨年は、部門制が導入され、デザート部門に出品。「お客さんの反応を見て手応えがあった」とその自信どおり部門優勝を果たしました。「新作はひらめくまでが大変」だと亀本さん。何をするときでも頭をひねり、今年はデザート部門と新設されたかまぼこ(練り製品)部門に出品。「食材が引き立つもの。インパクト」をテーマに開発しました。これまで約4万人を集客し、46種類もの作品が生まれたこのイベント。亀本さんの2作品を含む今回の17作品は、どの食材を使い、どのようなメニューで私たちの舌を楽しませてくれるでしょう。